

一般廃棄物処理基本計画に係る目標の進捗状況等について

1. 目標の進捗状況

一般廃棄物処理基本計画（令和3年度～12年度）においては、①ごみ総量、②1人1日当たりの家庭ごみ排出量、③最終処分量、④家庭ごみに占める資源物の割合の4つの目標を掲げており、令和5年度の実績は、次のとおりである。

(1) ごみ総量等

(単位:トン)

	R元年度 (基準値)	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度		R7年度 中間目標	R12年度 最終目標
				実績	前年度比		
①ごみ総量	373,373	361,199	358,583	342,301	▲4.5%	350,000	330,000
生活ごみ	234,235	238,107	232,645	220,998	▲5.0%	220,000	210,000
家庭ごみ	184,794	186,169	181,921	170,526	▲6.3%	172,300	158,000
缶・びん・ペットボトル等	20,621	21,914	21,581	21,084	▲2.3%	21,000	22,000
プラスチック資源	12,616	13,162	12,860	14,261	10.9%	12,500	14,000
紙類定期回収	11,347	11,806	11,403	10,783	▲5.4%	10,000	12,000
粗大ごみ等	4,857	5,056	4,880	4,344	▲11.0%	4,200	4,000
事業ごみ	139,138	123,092	125,938	121,303	▲3.7%	130,000	120,000
②1人1日当たりの 家庭ごみ排出量(g)	463	465	453	424	▲6.4%	430	400
③最終処分量	51,662	47,379	48,637	43,341	▲10.9%	49,000	46,000
推計人口(10月1日現在)	1,090,263	1,097,237	1,099,239	1,097,814	—	1,098,000	1,097,000

- 令和5年度のごみ総量は、前年度比4.5%減の342,301トンとなった。
内訳では、生活ごみが前年度比で5.0%、事業ごみが3.7%減少している。
- 1人1日当たりの家庭ごみ排出量は424グラムとなり、前年度に比べて29グラム減少した。
- 最終処分量は、前年度に比べて10.9%減となった。

(2) 家庭ごみに占める資源物の割合

(単位:%)

	R元年度	R3年度	R4年度	R5年度		R7年度	R12年度
	(基準年度)	(実績)	(実績)	実績	前年度比	中間目標	最終目標
④資源物 (製品プラ含む)	(45.7)	(45.4)	(45.7)	45.7	±0pt	35.0	30.0
(製品プラ除く)	42.5	42.0	41.9	(43.4)	1.5pt		
紙類	23.7	21.3	22.7	21.7	▲1.0pt	—	—
プラスチック	容器包装	9.8	11.0	10.7	9.5	▲1.2pt	—
	製品※ ₂	(3.2)	(3.4)	(3.8)	2.3	▲1.5pt	—
布類	7.4	7.5	7.0	10.7	3.7pt	—	—
缶・びん等	1.6	2.2	1.5	1.5	±0pt	—	—
生ごみ	32.5	35.4	30.7	29.8	▲0.9pt	—	—
その他	21.8	19.2	23.6	24.5	0.9pt	—	—

※₁ 毎月1回、清掃工場において家庭ごみ袋を抽出し開封調査した結果による(数値は年間平均値)

※₂ 製品プラは令和5年度より資源として回収しているため、「資源物(製品プラ含む)」の令和4年度までの数値は参考値

- 令和5年度の家庭ごみに占める資源物の割合(製品プラスチックを含む)は、前年度と同じく45.7%となっている。内訳では、布類がやや増加し、缶・びん等は横ばい、プラスチック資源や紙類などは減少している。
- 令和7年度の間目標値とは乖離が大きいことから、引き続き一層の分別徹底に取り組む必要がある。

2. 家庭ごみ等排出実態調査

家庭からの食品ロス量を把握するため、令和5年10月に5地区(各区1か所)を対象に、家庭ごみ袋(ごみ袋大中100袋程度)の開封調査を実施した。また、併せてごみの組成変化を把握するため、プラスチック資源(同大100袋程度)及び事業ごみ(可燃)(可燃ごみ袋90袋程度)についても開封調査を実施した。

(1) 生ごみに占める食品ロスの割合

(単位:%)

	R元年度	R4年度	R5年度	
	(基準年度)	(実績)	実績	前年度比
食品ロス	34.5	18.5	22.7	4.2pt
全く手付かず(残存100%)	17.0	6.0	10.3	4.3pt
ほとんど手付かず(50%以上)	4.5	2.9	2.5	▲0.4pt
一定程度手付かず(50%未満)	1.9	1.1	0.9	▲0.2pt
食べ残し等	11.1	8.5	9.0	0.5pt
調理くず	62.7	78.1	70.5	▲7.6pt
その他(茶殻等)	2.8	3.4	6.8	3.4pt

※令和元年度は10地区(各区2か所)、令和4・5年度は5地区(各区1か所)のサンプル調査

- 令和5年度の生ごみに占める食品ロスの割合は22.7%となり、前年度に比べて4.2ポイント増加した。
- 令和4年度に比べると増加しているが、コロナ禍以前の令和元年度と比べると大きく減少している。

(2) プラスチック資源の組成

(単位:%)

		R元年度	R4年度	R5年度(前年度比)	
プラスチック製容器包装	食用容器	29.1	31.1	23.0	(▲8.1pt)
	菓子袋等	24.9	32.7	27.3	(▲5.4pt)
	シャンプー・洗剤等容器	5.3	6.0	6.8	(0.8pt)
	飲料用容器	3.2	1.9	2.5	(0.6pt)
	発泡トレイ(白色)	2.3	1.3	1.2	(▲0.1pt)
	トレイ(白色以外、プラスチック製トレイ等)	3.4	1.4	1.8	(0.4pt)
	トレイのラップ、タバコの包装等	9.4	9.2	3.0	(▲6.2pt)
	保護材・緩衝材等	1.4	0.9	2.0	(1.1pt)
	レジ袋	2.6	1.0	1.2	(0.2pt)
	その他PET製ボトル類(食用油等)	1.2	0.4	0.2	(▲0.2pt)
製品プラスチック		5.1	2.8	16.4	(13.6pt)
仙台市指定袋		3.3	3.5	3.6	(0.1pt)
ペットボトル		1.5	1.7	2.2	(0.5pt)
プラスチック以外のもの(生ごみ、金属等)		7.3	6.1	8.8	(2.7pt)

※令和元年度は10地区(各区2か所)、令和4・5年度は5地区(各区1か所)のサンプル調査

- 令和4年度と比べて令和5年度は、重量のある「製品プラスチック」が13.6ポイント増加し、一括回収を開始した効果が現れている。
- 一方、「プラスチック以外のもの」も2.7ポイント増加している。これは、バネ等の金属を含む製品(100%プラスチックではない製品)などの混入が増加したためと推測され、引き続き分別徹底の周知啓発が必要となっている。

(3) 事業ごみ(可燃)の組成

(単位:%)

	R元年度	R4年度	R5年度(前回比)	
厨芥類	25.2	15.9	6.6	(▲9.3pt)
リサイクル可能な紙類	19.5	14.4	20.9	(6.5pt)
プラスチック	13.9	22.7	27.4	(4.7pt)
ペットボトル	0.5	0.6	1.2	(0.6pt)
金属類	1.9	1.1	0.4	(▲0.7pt)
その他	39.0	45.3	43.5	(▲1.8pt)

※令和元年度は9業種(36事業所)、令和4・5年度は業種を指定せずサンプル調査

- 令和5年度は、プラスチック類が27.4%と最も多く、令和4年度に比べて4.7ポイント増加した。
- 次いでリサイクル可能な紙類が20.9%と多く、前年度に比べて6.5ポイント増加した。
- 厨芥類については、前年度より9.3ポイント減少の6.6%となっている。